



古室 好光／  
熊谷 凌／  
飯田 拓海

..... 028



須田 龍／  
高橋 伸治

..... 040



坂本 徹哉

..... 042



内藤 義雄

..... 030



奥田 凌一

..... 044



川部 澄子

..... 032



袋本 将史／  
伊藤 修一／  
八木 隆太郎

..... 046



前泊 優斗

..... 034



楠瀬 昌澄／  
佐藤 旭

..... 036



大谷 雄一郎／  
永井 真人

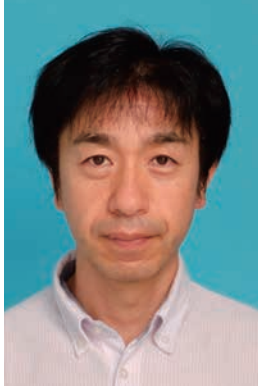
..... 048



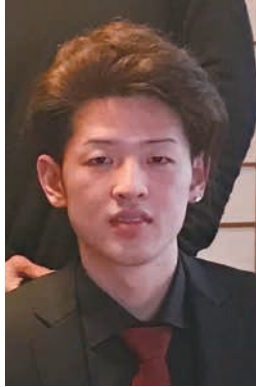
斎藤 修治

..... 038

## 古室 好光／熊谷 凌／飯田 拓海



古室 好光



熊谷 凌



飯田 拓海

## 茨城県

2015年8月10日、午後3時20分頃、茨城県高萩市の高戸小浜海岸の遊泳禁止区域で遊泳中に高波にさらわれて流されていた男子中学生を古室さんが発見した。古室さんは浮輪やロープを用意し、岩場にいる男子生徒に投げ入れ救助に向かった。その様子を見ていた飯田さんと熊谷さんも海に飛び込み連携して男子生徒を救出した。

(推薦者：高萩市)

## 古室 好光

救助が必要となった日は台風が接近しており、海上のうねりが大きく波も高く、一目で危険だと判る海でした。私は、家族とキャンプに行く途中で、その海に寄って遊んでいた時に中学生が波にさらわれているのを発見しました。その状況から私は「救助を待っていては間に合わない。何とか救助しなくては!」と思いました」が、その時脳裏に浮かんだのが、過去に川で小学生を救助した際に自分も溺れそうになった事でした。

「確実に救助出来る準備をして行かなければ助ける事が出来ない」と思い、直ぐに海に向かわず車に戻り、浮き輪とキャンプ用に用意していたロープを持って海へ向かいました。

しかし、思っていた以上に波が高く、私も何度か岩場から海に転落し恐怖を感じ、中学生のところに行くのはとても困難で、確実に救助する事が出来るのかとても不安で恐怖を感じましたが、結果として、3人で協力した事により無事に中学生を救助する事ができ、今は「中学生が助かって本当に良かった」の一言です。

その後、高萩市役所からの表彰の連絡があり驚きましたが、その表彰の際に、救助した中学生が元気に過ごしていることを聞いて喜んだ事を良く覚えています。

それから暫くたち、人命救助の功績として社会貢献者式典の連絡がきました。私は、他にもっと受賞されるべき人が居るのでは、自分が受賞して良いのかと思いました。

受賞を終えた今は、救助の際、心配してくれた私の家族、社会貢献者表彰に推薦して頂いた高萩市長を始め市役所の皆さま、推薦内容を審査し表彰式典を準備開催して頂いた社会貢献支援財団の会長および職員の皆様への感謝の気持ちで一杯です。この度は本当に有難うございました。これからの人生も、何かしら人の役に立てていけたら幸いと思っております。

## 熊谷 凌

私はこの度、海で溺れている中学生を助けて海難救助の件で表彰していただきました。

正直な所ここまで大きな話になるとは思ってもなく、ただ溺れていた中学生が助かってよかつ

たとそれだけでした。その反面、人を助けるということがどれだけ大変な事かも身にしみて感じました。必ずこの話を他人にすると「自分の命も危なかったんだからね」と言われ助けている時は必死だったのですが、その言葉を聞くと再び我に返っていました。

自分の命と救助で助かった命、被害者がでなくて終わる事ができて本当によかったです。また日本のファーストレディに表彰されるという2度と経験出来ない様な経験もすることができてよかったです。

飯田 拓海

私にとって表彰式の会場の雰囲気は今までに味わったことのない緊張でこれから先もなかなか経験できることのない素晴らしい体験をさせて頂きました。

自分の人生全てを社会貢献に捧げている方々の表彰はすごく感動しました。今回の表彰式に参加させて頂いてなければこのような素晴らしい活動をしている方がこんなにもたくさんいることを一生気付かずに終わっていたと思うので今回表彰式に参加して気付けたこともたくさんあり自分も社会貢献できるような人になれるように頑張りたいと思いました！

今回、私は地元の海で溺れている中学生を助けることが出来ました。

中学生と言うまだまだ将来のある若い命を助けることができたことは自分自身でも誇らしく思います。溺れている中学生を見て咄嗟になにも考えずに助けに行き、協力してくれた友人のお陰で無事助けることはできましたが、親や親戚の方には「助けに行つて自分が命を落としてしまうこともあるから助けることは大切なことだけど自分の命を1番に考えて行動しなさい」と言われました。もしそういう場面が次もあれば自分の命を最優先に考えながらも困っている人を助けられるような方法を咄嗟に考え、行動できればいいと思います。

後日、助かった中学生の親御さんや中学校の先生などから本当にありがとうと言われた時は、本当に助けてよかったなと思ったと同時に、心配してくれる人が周りにはたくさんいて悲しませてしまうことになるかもしれないので自分自身も気をつけようと思いました。また、命の大切さを改めて再確認することができました。

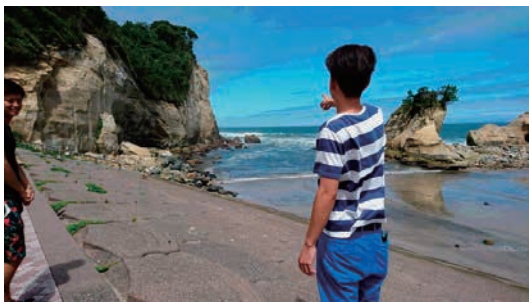
日本人の素晴らしさとはお互いが協力し合って住みやすい環境を作り上げ助け合うことだと思っています。

自分だけではなく人のために。そして周りの方々に常に感謝の気持ちを持って生きていくことを忘れずにこれからも頑張りたいと思います。

今回はこのような素晴らしい会に参加できてほんとうによかったです。このような素晴らしい賞があることをもっと世間的に広まり、助け合い、協力し合ってもっとたくさんの命や国を救うことのできるそんな世の中になればいいと思います。

今回の賞に選んでいただき参加できたことは今後生きていくなかでも一番の功績になると思います。選考していただいたことを有り難く誇りに思っています。今後この賞に恥じることはないようにこれからの人生を精一杯生きていきたいと思っています。

本当にありがとうございました。



▲現場を指す熊谷さん



▲古室さんと飯田さん

## 内藤 義雄



北海道

2015年9月17日、午前10時50分頃、北海道野付郡の尾岱沼漁港で、車が海中に転落したことを聞きつけた内藤さんは現場へ駆けつけた。海中に軽自動車が浮いており、協力者が岸壁から棒を使い後部ドアを開けたので、内藤さんは海に飛び込んで車内に入り、助手席で腰まで水に浸かっていた男性を引っ張り出し、投げ渡された浮輪を男性に掴ませ、ロープも巻き付けた。その後、別の協力者が係留してあった台船まで男性を引っ張り、台船から岸壁に引き上げ救出した。

(推薦者：別海町役場)

この度、公益財団法人社会貢献支援財団主催による第48回社会貢献者表彰式典におきまして、栄誉ある賞を賜り誠にありがとうございました。

当日は車の海中転落の情報を聞きつけ無我夢中で体が動き、結果として一人一人の命を救う事に繋がり、私としましても大変うれしい限りです。

今後は、仕事を今以上に邁進し、地域の発展の為に精進を重ねていく所存です。

安倍昭恵会長をはじめ、当日式典にて多くの皆さんと交流を持たせて頂き、見聞を広めることが出来ました。推薦頂いた地元の別海町に対しましても、深く感謝を申し上げ、お礼の言葉とさせていただきます。

内藤 義雄



▲尾岱沼漁港からの眺め



▲軽自動車が浮いていた現場





▲尾岱沼漁港



▲漁業の内藤さん

# 水没車から人命救助

## 別海 内藤さんに感謝状

水没する車から運転者を救助したとして、別海町尾岱沼在住の漁業内藤義雄さん(46)野付漁協所属が、根室北部消防事務組合消防本部から組合長感謝状を授与された。

内藤さんは、9月17日午前10時50分ごろ、野付漁協前の岸壁付近で海中に軽自動車車が浮いているのを事務所の窓から発見。すぐに現場に駆け付け、海に飛び込んで後部ドアを開け、車内から助手席の男性(90)を救出した。その直後に車は海中に沈み、男性は岸壁から引き上げられる際に負った頭部のかすり傷ですむ軽傷だった。

中標津町役場を訪れた内藤さんに、組合長の小林実町長は「まさに危機一髪。勇気ある行動と迅速な対応」

### 首長の動静

- ◇根室市長 ▽消防事務で札幌市へ出張中、本日帰庁
- ◇別海町長 ▽出張(青森県青森市)
- ◇中標津町長 ▽午後3時、中標津町表彰着賞委員会(議室)
- ◇標津町長 ▽午前10時30分、根室農業改良普及センター所長ほか来庁・地場農産振興に関する面談(町長室)
- ◇藤田町長 ▽正午、外務省口シニア課来庁(町内)

小林町長らに救出劇の様子を語る内藤さん(中央)



に感謝します」と述べ、感謝状を手渡した。内藤さんは、「多くの人たちが浮輪を投げたりと協力してくれたことが、命を救うことにつながった。高齢の方だったので、無事だったことが本当に良かった」と笑顔で話していた。(真直恒平)

## 川部 澄子



山形県

2015年12月22日、午後4時30分頃、山形市蔵王成沢地内の須川河川敷を散策していた川部さんは、須川で溺れている高齢女性を、同じく散策中の2名と共に発見した。川部さんは110番通報し、躊躇することなく一人で河川幅約15mの川に入り、腰まで水に浸かりながら溺れている女性を岸まで手繰り寄せ、他の2名と共に河川から引き揚げ救助した。

(推薦者：山形市消防本部)

「表彰式典にお招きいただきて」

社会貢献支援財団の推薦に携わられた方々、山形市消防本部様への感謝と表彰式典にて名誉ある表彰状を授与いただいた事、大変な榮譽と心より感謝を申し上げ、生涯の宝物として、胸深く刻みます。

他の人命救助で受賞された方々の功績も、危険を顧みず、救助の一念で行動されたこと、感動いたしております。社会貢献で受賞された方々の功績も、世界の隅々で長期活動されていることなど、素晴らしいことと、拝聴いたしました。

祝賀会では、豪華な料理等を囲んでの談笑に加えて、安倍会長の各受賞者への声かけと握手には、感謝と感動で手が震える気持ちでいっぱいでした。他の受賞された方との語らいも、心に残る思い出となりました。世の中には、気がつかないだけで、もっともっと、社会に貢献できることがたくさんあると感じ、日々の生活の中で「気づき」を常に感じていきます。

12月22日は冬至で、あずきカボチャを食べる風習があるのですが、天気が良かったので、散歩から帰ってから作るからと、主人に言って出かけました。前日の雪の残る堤防沿いを、蔵王を背に、月山を正面に眺めながら散策していると、堤防の下の川岸にリードを付けた子犬が一匹、川の方を見ていたのです。(私も犬が大好きで、18年間、散歩・旅行といつもいっしょでした)私は「とっさ」に立ち上がり、誰もいないし、人の気配がないので、川の方に目を向けたら、大きな黒いものが流れていました。私はすぐに川岸まで行き、人が流されているのを見て助けなければと思い、川には入りました。流されている人は、意識が無かったので、流れの穏やかな深みを利用し、浮かせて川岸まで引っ張って行きました。川岸で二人が待っていたので、三人で引き上げるも、意識がないので意識を取り戻そうと大きな声で声がけしながら頬を何回か強く叩いているうちに、微かな反応があったので、三人で手足のマッサージをして、救急車の到着を待ちました。救助された方は低体温だったとのこと。

救助しての帰り道、ずぶ濡れで、自宅まで20分震えて帰り、風呂に昨夜の残り湯があったのでそれに浸かり、生きた心地がしました。川の水の冷たさより残り湯の温かさはいつまでも忘れません。これも二人の協力があったから救助できました。お二人にも感謝の気持ちでいっぱいです。



事故当日から一年半ほど過ぎましたが、相変わらず散策は毎日の日課として、水泳教室は週一回通っています。とっさの判断で行動ができるように、いつまでも元気で自分でできる生きがいを見つけ、楽しみながら前向きに生涯学習として頑張っていきたいと思います。

末尾に、今回の表彰式典にお招きいただいたこと、心から御礼申し上げます

川部 澄子



▲雪解けて増水している須川の様子



▲救助現場を指さす川部さん

## 山形

地域の情報をお寄せください  
 社 023 (622) 5271  
 本 支 社 023 (653) 2230  
 天 支 社 023 (672) 5821  
 上 支 社

川で溺れた女性救助  
2人に感謝状を贈呈

山形市消防本部

山形市蔵王成沢で昨年12月、川で溺れた女性(84)を救助したとして、市消防本部(海和孝幸消防長)は2日、近くの主婦川部澄子さん(68)と同市成沢西2丁目、長岡貞夫さん(74)に感謝状を贈った。

昨年12月22日午後4時半ごろ、女性が犬を連れて河川敷を散歩中、そばを流れる須川に転落した。犬がほえていることに川部さんが気づき、溺れている女性を発見。川部さんは警察に通報するとともに川の中に入って女性をのり面まで移動させ、長岡さんらと一緒に引き上げた。女性は低体温症で病院に搬送されたが、命に別条はなかった。

感謝状を受け取る川部澄子さん(中央)と長岡貞夫さん(右)

山形市消防本部

贈呈式では、海和消防長が2人に感謝状を手渡し、「危険を顧みず、大切な命を救ったことに心から感謝したい」と話した。川部さんは「無我夢中だったが、助かって良かった」、長岡さんは「また元気がなったら散歩してほしい」と話し、笑顔を見せていた。

この事故では、川部さんと長岡さんと共に別の女性が救助に協力したが、名乗らず立ち去っており、市消防本部は「せひ名乗り出てほしい」としている。



▲16年続けている剣舞を披露中



▲65歳から通い始めた水泳教室

◀2016年2月3日 山形新聞

## 前泊 優斗



沖縄県

2015年8月10日、午後4時10分頃、沖縄県宮古島市内の渡口の浜ビーチで遊泳していた前泊さんは、沖合で4人が溺れて助けを求めているのを目撃し、浜辺にいた人から浮輪を借りて荒れていた海に入り、浜辺から約30メートル地点で溺れていた女兒を浮輪につかまらせ救助した。女兒を助けに向かった祖父や父を含む他3名は亡くなった。当時、台風13号の影響で波の高さは約2mで強いうねりを伴い、晴天ではあったが海は荒れており、離岸流が発生する場所で起きた事故だった。

(推薦者：公益財団法人 警察協会)

2年前の夏休みに友人何人かと泳ぎに行き、浜で休んでいると海の方から「助けてー！」と言う声が聞こえてきました。

その日は、台風の影響で海は荒れ高波でした。声のする方へ向かおうとしましたが一旦浜に戻り、女の子の母親から浮輪を借り女の子のいるところまで泳ぎ、浮輪につかまらせ足の着いたところに来たら女の子を抱きかかえ、母親のもとに連れていきました。抱きかかえた時、女の子に「大丈夫？」と声を掛けると「うん！大丈夫、ありがとう」と返事があったので安心しました。

この事故で女の子は助かりましたが、兄、父、祖父は亡くなってしまいました。そのことを思うと今でも悲しくなります。

「社会貢献者」として警察協会様から推薦して頂き、本当にありがとうございました。

受賞の話を頂いた時、正直なところ人命救助した時、他の方が命を落とされていることもあったので受賞式に参加していいのかどうか迷いました。しかし、事務局の方から親を通しやり取りしていく中で、いろいろな事を話し合い考え、受賞式に参加させて頂くことにしました。

この受賞式をきっかけにいろんな方の体験談等を聞かせてもらったり、僕自身いろんな事を考えたり、周りの方といろいろな話をする事もできました。そして今まで以上に多方面から関心を持つこともできるようになりました。

「一つの命」についても改めて考えることもできました。また、他の方の人命救助や世界に貢献している方がたくさんいる事を知る事もでき、本当によかったです。

そして、この賞を頂いたことを恥じないように日々の生活を送りたいと思います。

そして、僕に命をくれ育ててくれた両親にも「親孝行」できるようになりたいです。遠方であるにもかかわらず、両親も受賞式・式典に招待して頂き感謝の気持ちでいっぱいです。

本当にありがとうございました。

前泊 優斗





▲離岸流に注意を促す看板



▲浮輪を持って救助に向った前泊さん



▲渡口の浜ビーチ



▲平成27年8月11日沖縄タイムス



▲平成27年8月11日琉球新報

## 楠瀬 昌澄／佐藤 旭



楠瀬 昌澄



佐藤 旭

大阪府

2015年5月30日、午前6時40分頃、大阪府大東市諸福の戎大黒橋付近の寝屋川で、橋から飛び込んだ人が仰向けの状態で浮き沈みしながら下流へ流されているのを楠瀬さんと佐藤さんは目撃した。楠瀬さんは川の左岸を走り、橋から約100メートル先に設置されていた点検・作業用の鉄梯子を伝い降りて川に飛び込んだ。続いて佐藤さんも川に飛び込み、ふたりでその人を抱きかかえながら立ち泳ぎを続け、レスキュー隊の到着を待った。川は水面から6メートル以上の岸壁が垂直に立ち上がり、水質は極めて悪くヘドロが発生していて、一度飛び込むと自力で這い上がることは不可能だった。

(推薦者：公益財団法人 警察協会)

## 楠瀬 昌澄

5月30日の朝6時位に車で会社に行き、飼っている猫にエサをあげて家に帰る途中、橋の上で女性数人が騒いでいるのを見て、車を止めて橋の下を見ると川で女性があおむけに浮いているのを目撃しました。

川の両サイドは高い塀になっており、その塀からハシゴが下がっていたのですぐに助けようと思い、ハシゴから降り、川に飛び込みました。そのすぐ後に佐藤さんが川に飛び込みました。

飛び込んだ所から女性の浮いている場所まで距離があり、僕は途中で力尽き川の塀側で立ち泳ぎしてしまいました。

佐藤さんが女性の元まで行きつき、女性を抱えて僕の方に来ました。3人で塀側に浮いていると、上からロープが降りて来て、そのロープを持って救助が来るのを待ちました。

佐藤さんには感謝しています。

後日、その女性が助かったと聞き、本当に良かったと思いました。

この度は名誉ある賞をいただいてありがとうございました。帝国ホテルに妻と甥っ子と姪っ子と泊り、いい思い出になりました。安倍昭恵さんに妻と姪っ子が握手していただいたのも嬉しかったです。

本当にありがとうございました。

## 佐藤 旭

この度、社会貢献者表彰という名誉な式典に招待して頂き、ありがとうございます。

当時、朝の仕事の出勤途中に橋で群がる人を見て、何かなと思い見てみると人が川に浮かんでいるのが見えて、どうにかして助けなければという強い思いがして何か浮く物を探しているうちに、楠瀬さんが川に入り、自分も後先考えず川に入りました。作業服で川に入ったため、思っている以上に泳ぎづらくやっとの事で飛び込んだ人のもとへ行き、川べりまで連れて行こうとしたのですが、服を着たままなので体力もつきかけ、一度救助するのをやめて一旦、あおむけになり休憩する形をとり、一瞬自分ももしかして死ぬのかなと頭をよぎりましたが、死にたくない思いが強くなりもう一度救助に向かい、何とか川べりまで連れて行き、周りの人から投げてもらっていた



ロープにつかまり、楠瀬さんと一緒にレスキューが来るまで立ち泳ぎをして、無事に誰も死なずに助かることができました。

自分でもびっくりするくらいです。

今回、こうして誰も死なずに助かったのは、周りにいた人や警察の方などの協力があるの事なので、自分が呼ばれてなにか申し訳ない気持ちになりますが、この文章で他の人も人命救助に携わっていたことが分かれればと思います。

今回の事を機にもっと人に役立つ人間になっていきたいと思っています。

受賞式に呼んで頂き、ありがとうございました。



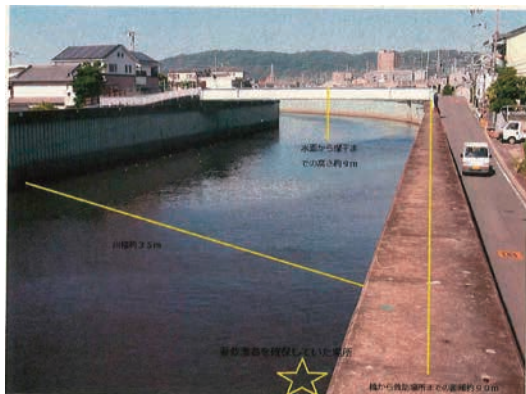
▲ 救助後の現場



▲ 楠瀬さん 佐藤さん



▲ 点検・作業用のはしごから川へ飛び込み救助したものの、水面から6mもの壁が立ちあがり水中でレスキュー隊を待ちました



▲ 戎大黒橋（救助場所から撮影）



▲ 救助現場付近の寝根川（戎大黒橋の北西側から撮影）



## 齋藤 修治



北海道

2015年12月28日、午前8時25分頃、JR北広島駅ホームにて電車を待っていた齋藤さんは、人がホームから落ち、線路上にうつ伏せに倒れたのを目撃した。通過列車が接近していたがホームから飛び降り、その人を線路上からホーム向い側へ移動させて命を救った。救助の10秒後には時速110キロで列車が急停車しながら通過し、ホームを超えて停車した。

(推薦者：公益財団法人 警察協会)

この度、社会貢献者表彰をいただき心より感謝申し上げます。

表彰式典では、自分の身を投げ打って尊い命を救った方々や海外や国内の本当に困っている人達の為に人生の全てをかけて尽力された方々がこんなにたくさんいらっしゃるという事に心から感動いたしました。

私も式典では、受賞者という立場ではありましたが、皆様それぞれの勇気と愛ある行動にまるでドキュメンタリー番組を見ているかのような第三者的な気持ちで目頭が熱くなりました。

私は、この度、人命救助の功績者として表彰いただきました。

以前、たくさんの方々に「その時、何を考えたのか？」というご質問をよくいただきました。答えはいつも「ただ単に、助けようと思っただけで、方法を考える前に飛び降りていました」。

「妻には、あなたが生きていて良かったと言われました」とお話をいたしました。

「すごいですね」と言われたら「恐縮です」とお答えしました。

私も人命救助の皆様同様、「助けよう」という瞬間的思いで行動しただけで、後で考えても「当たり前的事をしただけ」と思いますので、「恐縮です」が唯一のお答えでした。

振り返り考えてみますと、特急列車の停止を確認し、救出した方に声をかけましたら、なんとか意識も戻り、小声で「すみませんでした」と言われた瞬間に自分の時間も動き出したような気がします。

列車の後方部分を周り、駅のホームに上がってきた瞬間に、その場にいた全ての人が、私達の方を見ていて、多くの皆さんから「よかった」「すごいよ」「ありがとう」と口々に言われ、見知らぬ人から肩を叩かれたり、握手を求められたり。自分では、別に特別なことをした訳ではないのにと考えつつ、その場の雰囲気戸惑った記憶が

あります。

翌日、救出した方の親御様をご挨拶にお越しになりました。お父様は涙ぐんでおられました。その時、私も心から「助かってよかった」と実感いたしました。

自分の目の前で人が亡くなるのを見たくはないものです。私の行いで、喜んでいただける方がいらっしゃるということは私にとって大きな喜びです。

事件や事故、まして災害は予知できません。予測はしても絶対に避けられるものでもありません。困ったときは助け合い、誰かが危険に遭遇した時には助けるという気持ちが大それた改めて思う次第です。

表彰式典で安倍会長が表彰状を渡される際、人命救助の受賞者お一人お一人に「ありがとうございます」とおっしゃっていたことが、命への感謝であり、心より感銘いたしました。

最後に、もし、私が死んでいたらと一番心配をかけた家族、両親には、今後一人ではあまり無理をしないことを約束します。

この度の受賞、誠にありがとうございました。

斎藤 修治



▲ホームから転落した人が線路上にうつ伏に倒れた場所



▲救助の10秒後には時速110キロの列車が通過した



▲JR北広島駅にて

## 須田 龍／高橋 伸治



須田 龍



高橋 伸治

埼玉県

2015年6月16日、午後8時36分頃、埼玉県北足立郡伊奈町の豪雨で冠水していた町道を車で走行中の須田さんは、水没した車から自力で脱出した高橋さんに遭遇した。二人は道路の状況を110番通報し、警察官の到着を待つ間に他の車が冠水した道路に進入しないように交通整理をしていたが、迂回させたはずの車が進入して水没し、身動きが取れなくなってしまった。高橋さんが浮いた車を抑えている間に、須田さんが車の窓から中にいた子ども2人を救出し、駆け付けた警察官と共に運転していた女性ともう一人の子どもを救出した。

(推薦者：公益財団法人 警察協会)

## 須田 龍

この度は、社会貢献者表彰式に出席させて頂きそして、大変名誉のある賞までいただきまして、身の引き締まる思いです。そしてとてもたくさんの方に拍手で迎えられ式場に入場したときの感動は今でも忘れる事の出来ない良い思い出です。

6月16日、伊奈町は今まで見たことがないくらいのゲリラ豪雨でした。家でも色々あり少し気分転換で外に出て、車で少し動いていた時にたまたま新幹線の高架下で動いていない車を発見しました。それで自分の車を安全な場所へ停めてからそこへ向かうと一人の男性がいて、その男性の物であろう車はドアの窓の部分まで水が来ていて完全に水没した状態でした。その方がこの後に一緒に救助活動をした高橋さんです。

高橋さんの車は完全に動かない状態でした。交通整理をしないと他の車も水没してしまうと思い、二人で警察官が来るまで交通整理をしていました。ただ、その時はあちこちで冠水が起きていて、大変な状況だったようです。

新幹線の高架下が右側も左側も冠水していたので、Uターンをしてもらうように交通整理を二人でしていました。その最中に、「バシャーン」と音がしたので反対側の高架下を見に行ったら、先ほど迂回して帰ったはずの車が水の上に浮かんでいました。

あわてて、高橋さんと二人で見に行くと車が完全に水の上に浮かんでいる状況でした。

正直、車が水の中に入ってからどれくらい時間があつたのかは覚えていませんが、車の中で子どもが泣いているのも気づいていたので、すぐに車に向かいました。運転していた女性は完全にパニック状態で、助手席に乗っていた女の子が必死に誰かに電話をしているのが確認できました。まずは電気が通電しているか心配でしたが、運転席の女性にパワーウィンドウを下げてもらうように手で合図をおくりました。そうしたら、運よくまだ通電していたので下がりました。水も私の胸の位置くらいまでありまして流れも多少あり、救出するときに足元をとられてしまいそうだったので、なるべく近くにあった柵の付近まで車を手で手繰り寄せ、順次子どもたちを優先にして救出していきました。正直、無我夢中で記憶はあいまいですが、一番印象に残っているのは、後ろの席にいた男の子がとても大事そうに抱えている物があって、それを聞いてみたら、「大事なカードなんだ!!」と言い、どうしても濡らしたくないと必死だったのを鮮明に覚えています。

今思えば、どうしてもあのような行動がとれたのかは今でも不思議です。ただとっさに、助けなくちゃと思ったのだと思います。

最後に、私としましてもたくさんさんの経験をさせて頂き、本当に感謝しております。今後も社会に貢献できるよう努力を重ねていきたいと思っております。ありがとうございました。

## 高橋 伸治

今回、このような大変名誉な式典に出席させていただいた事を嬉しく思っています。



私以外の人命救助をされた方々や世界で社会貢献の為に活躍されている方々の話を聞き、とても素晴らしい事をされているなあと感じつつ、その方達と同席して表彰される自分自身に対して何かおこがましく、不思議な気分でした。一方でこの様な榮譽ある方々と同席する事で今後の私自身の人生を、より誰かの為に自然と手を差し伸べられる人間になれるように生きていきたいと感じました。

私が今回表彰して頂いた人命救助は、水害の際の出来事でした。職場での仕事を終え車で帰路に向かっていた際、冠水した道路に自らの運転する車を浸水してしまう事から始まります。下手をすると自らも誰かの救助を要する事態になっていたかもしれません。

たまたま、単独であった事もあり冷静を保ちながら、何とか脱出する事は出来たのですが、立地の道路は冠水し車が立ち往生するほどの水嵩になるとは知りませんでした。

その日はとても強い雨が夕方から続き、夜間になってもおさまらない状態でした。見通しが悪く夜間帯ということもあり、水が溜まっている道路かどうかは慎重に運転しても誤る位だったと記憶しております。

自らの車が水没に至り何とか窓を開けて脱出しましたが、路上に出ると水は175cmある私の身長から胸当たりまで達しており、とても驚きました。

その後、私達が救助した車に乗っていた方も近所にお住まいとの事でしたが、その場所でこの様な水害が起こる事は予想できなかったかもしれません。

いつ何時、色々な災害や災難に巡り合うかはわかりません。もしかすると、その時自分自身もそうになっていたかもと自身の車を水没した私自身は感じるのです。

だからこそ、災難にあった側でも冷静に、困った人が居たら自然と手を差し伸べられる人間で居たいと思っています。

他の人命救助で表彰された方の話の内容では助けられた人と助けられなかった人の両方を同時に経験される方もいて、とても考えさせられるお話を聞くことが出来ました。

現在、私は障害者支援施設で働いており多くの助けや支援を必要としている方々のお世話をさせて頂いております。その職場においても、多くの方々が必要とされている事柄に対して自然と手を差し伸べる事が出来る人間でありたいなど今回の表彰を受け、より感じる事ができました。

今回の社会貢献支援財団の表彰に際して、ご担当者の皆様には大変ご足労をおかけし申し訳ございませんでした。本当に光栄で良い機会を与えて頂き有難うございました。



▲当日は用水路が氾濫するほどの豪雨だった



▲車が水没した現場に立つ須田さん



▲2015年7月4日 読売新聞

## 坂本 徹哉



佐賀県

2015年9月18日、午前7時40分頃、佐賀県武雄市内の国道34号二俣交差点を車で走行中だった坂本さんは、交差点を左折した大型トラックが、自転車で横断歩道を走行中の女子高校生と衝突し、女子高校生を車底部に巻き込んだまま気づかず走行を続けているのを反対車線から目撃した。坂本さんは車から飛び降りて両手を広げて立ちふさがり、進行してくる大型トラックを停止させた。事態を把握できないトラック運転手は再び車両を発進させたが、坂本さんは再度立ちふさがり、身を挺して車両を停止させ、運転手を降車させた。運転手にトラックの前輪を持ち上げるように指示し、他の救助者と共にトラックの下から女子高校生を救出した。女子高校生は軽傷で済んだが、うつ伏せの状態で約25メートル引きずられていた。

(推薦者：公益財団法人 警察協会)

この度、社会貢献者として表彰を受け大変光栄に存じます。人命救助は人生で2度目となりますが、2回共考えるより先に咄嗟に体が動いたという感じです。1回目は十数年前に橋の欄干から飛び降り自殺しかけていた女性を救助し、今回は大型トラックの人身事故に伴う人命救助です。

トラックの前に立ちただかり車を止め、車輻の下敷きになった少女を助け出したのですが、それを聞いた方々からは、「自分の命まで危険に晒して、少女を救った勇敢な行為だった」と称賛されました。しかしその時は只々「この少女の命を助けたい、こんなところで若い命を犠牲にしてはいけない!」と、必死で救助活動をしていました。

そこには勇敢な行為という認識も、何の利害関係も損得勘定もありませんでした。

「困っている人が居たら助けよう」小さい時に親や学校から教わる心得ですが、そもそも学ばなくても道徳的に人間の心に在るものだと私は思っています。しかし救助している時、何台もの車が横を通過し、中には携帯電話で写真を撮っている人までいました。「他人に無関心」今日の日本社会の現状としてよく耳にしますが、人の命にまで無関心な今の社会に少々悲哀を感じました。

私にも息子がいますが、昔から「お年寄りや女性には優しく、困っている人が居たら声を掛けなさい」と、これだけを教えていました。「偉くなる必要は無い、思いやりを持って、当たり前前の事が当たり前でできる人間になりなさい」と。

今回、社会貢献者として表彰を受けましたが「他人を思いやり、助け合う」という事が当たり前前の社会になれば、きっと国民皆が社会貢献者となるのではないのでしょうか。「特別な表彰を受ける事なく、特別な事が当たり前でできる社会」そんな日本になってくれることを祈っています。何よりも今回未来へと命を繋いだ少女が、そういう優しい女性となって、思いやりの連鎖でこの国の未来を、明るく担っていつてくれることを祈っています。

でも、「只々、無事でよかった」それが一番ですね。



今回、私以外にも多くの方々が社会貢献者として表彰されておられます。このような方達の活動が、こういう式典により、世間の皆様知ってもらえる事は大変有意義な事だと思います。様々な取り組みや活動を知って頂く事により、多くの方が「より良い社会」の為に活動されたり、そういう想いを抱き未来を紡いでいかれる様なになれば大変嬉しく思います。

私もこれからも引き続き社会貢献者として、社会に対し様々な貢献が出来る様、日々精進して参る所存です。

坂本 徹哉



▲感謝状 贈呈の様子



▲事故発生現場 坂本さんが目撃した方から撮影



▲武雄市二俣交差点

**人命救助で長官感謝状**  
**坂本(佐賀市鍋島) 山田さん(佐賀市金立町)に**

危険を顧みず、人命救助に当たったとして、佐賀県内から2人が警察庁長官から感謝状を受けた。県内の長官感謝状は1967年(昭和42)年9月に伊万里(昭和42)年9月に伊万里市の集中豪雨での救助活動

以来、ほぼ半世紀ぶり。25日、県警本部で伝達式に出席した2人は「当然のことをしたまで」と謙虚さを見せた。感謝状を受けたのは

警察庁長官感謝状を受章した坂本徹哉さん(左)と山田健太郎さん(右)＝佐賀市の県警本部

町(26)の専門学校講師山田健太郎さん(26)。

坂本さんは昨年9月、武雄市橋町の国道交差点で、信号待ちで停車中、自転車横断していた女子高生が左折した大型トラックに巻き込まれた事故を目撃。車から飛び出し、そのまま走り去ろうとしていたトラックの前に立ちふさがって停車させ、女子高生を救い出した。

山田さんは昨年10月、出勤途中に佐賀市の多布施川で軽乗用車が転落し沈んでいくのを発見、川に入って車中から男女2人を救出した。2人は「一見で見ぬふりはできなかった。うれしい」(中島幸毅)と話した。

2016年(平成28年)2月26日 佐賀新聞

▲2016年(平成28年)2月26日 佐賀新聞



## 奥田 凌一



北海道

2016年2月29日、20時37分、北海道美唄市峰延駅からの帰宅途中だった奥田さんは、自宅近くの親戚の家が燃えているのを発見した。自宅にいた母親に親戚宅が火事であることを伝えた後、走って親戚宅へ向かった。家全体に火の手が回っており、炎に包まれた玄関内で倒れている叔母を発見した。奥田さんは叔母を抱きかかえ屋外へ救出した後、燃えている衣類に雪を掛けて消火した。さらに玄関内でつながれていた飼い犬のリードを外し救出した。

(推薦者：北海道美唄市消防本部)

今回、この様な素晴らしい式典に参加させていただき誠にありがとうございました。当時高校2年生だったあの頃の私には到底想像もつかないほどの規模の式典に驚きが隠せませんでした。

私が入命救助をしたのは2016年の2月29日に北海道の美唄市に起こった火事の時でした。学校からの帰宅途中、夜8時30分ごろに自宅付近まで来ると焦げた臭いがし、ふと顔を上げると火に包まれた一軒の家が目に入りました。その火は親戚宅のものだと判断しとっさに自分の持っていた荷物を自宅に投げ込み家族に火事だと言う事を知らせました。現場に行くと玄関先で倒れているおばを発見し、家の外へ運び出しましたがおばの体には火が燃え移っていました。雪のある季節が幸いし近くにあった雪で消火しました。しかし、一緒に住んでいたおじは助ける事が出来ませんでした。

私のこの行動は、小さい頃に習い事の先生に言われた一言が関係していると思います。小学生のころから柔道を習い始め、教えてもらっていた先生には「人を助けられるような人になれ」と言われて人としての生き方も教わりました。両親もその先生を尊敬しており、私を立派に育ててくれたからこそ今回一人の命を救う事が出来たのだと思います。私はあの日以来、煙や焦げた臭いに敏感になりすぐに「火事かもしれない」と考えてしまうようになりました。今まで自分の周りには火事なんて起こらないと思っていたのにこんなにも間近で起こってしまうなんて思いもしませんでした。周りの人からは「一步間違えればお前が死んでいたかもしれない」と怒られましたが、きっと私はまた目の前で火事が起これば同じ行動をとってしまうと思います。

式典に参加して感じた事は世の中には数えきれないほどの事故があるという事です。普段生活していて新聞やニュースを見るよりも式典に参加する事によって当時の現場をよりリアルに感じ取る事が出来ました。また、私よりも若い人がいると言うのにも驚きました。中学生の時に人命救助をした人がいてその行動力はこれからの若い

世代に受け継いでいってほしいものだと思います。私が今回受賞できたのは、私を育ててくれた両親や先生、そしてたくさんの方々の受賞対象者の中から私を選んで下さった委員の皆様のおかげだと思います。これからの人生、この出来事を忘れることなく前に進んでいこうと思います。今回は誠にありがとうございました。

奥田 凌一



▲火災現場



後藤消防長から感謝状を受ける奥田くん

【要約】市消防本部は20日、2月20日夜に市内峰延町で発生した住宅火災で、人命救助の消防活動に際して、奥田くんが、一人が動いた瞬間、自然と体が動いた。夢中でした。火災は2月20日夜に発生した住宅火災で、住民の女性を救助したとして、市消防本部から3月、感謝状を贈られた。「人が倒れていると思った瞬間、自然と体が動いた。夢中でした」

母の福田和子さんは20日、2月20日夜に、市内峰延町で発生した住宅火災で、人命救助の消防活動に際して、奥田くんが、一人が動いた瞬間、自然と体が動いた。夢中でした。火災は2月20日夜に発生した住宅火災で、住民の女性を救助したとして、市消防本部から3月、感謝状を贈られた。「人が倒れていると思った瞬間、自然と体が動いた。夢中でした」

「感謝状を贈られた。人が倒れていると思った瞬間、自然と体が動いた。夢中でした」

母の福田和子さんは20日、2月20日夜に、市内峰延町で発生した住宅火災で、人命救助の消防活動に際して、奥田くんが、一人が動いた瞬間、自然と体が動いた。夢中でした。火災は2月20日夜に発生した住宅火災で、住民の女性を救助したとして、市消防本部から3月、感謝状を贈られた。「人が倒れていると思った瞬間、自然と体が動いた。夢中でした」

▲空知新聞社プレス空知 (2016年3月23日)

# 叔母の命を助ける

住宅火災で市消防本部から感謝状

峰延町の北海高校2年の奥田くん

美唄発  
まち人  
美唄市峰延で2月に発生した住宅火災で、住民の女性を救助したとして、市消防本部から3月、感謝状を贈られた。「人が倒れていると思った瞬間、自然と体が動いた。夢中でした」



住宅火災で住民救助の高校生 奥田 凌一さん(17)

生。学校からの帰宅途中に火事に気づき、携帯電話で119番するとともに玄関先で倒れていた女性(1)を屋外に運び、燃えていた服に雪をかけ消火した。女性も助けられて良かった。たかな (堀田昭一)

母の福田和子さんは20日、2月20日夜に、市内峰延町で発生した住宅火災で、人命救助の消防活動に際して、奥田くんが、一人が動いた瞬間、自然と体が動いた。夢中でした。火災は2月20日夜に発生した住宅火災で、住民の女性を救助したとして、市消防本部から3月、感謝状を贈られた。「人が倒れていると思った瞬間、自然と体が動いた。夢中でした」

▲2016年(平成28年)4月12日 北海道新聞



## 袋本 将史／伊藤 修一／八木 隆太郎



袋本 将史



伊藤 修一



八木 隆太郎

## 滋賀県／愛知県

2015年10月9日、午後3時17分頃、福井県小浜市の犬熊漁港の突堤から国道162号を見上げていた伊藤さんは、鉄柵を破り約10メートル下の海に転落する車を目撃した。伊藤さんは八木さん、袋本さんと共に法面を伝って転落現場付近に向かった。国道のガードレールから海岸まで下がっていたロープを伝って、伊藤さんと袋本さんが水際まで降りた。八木さんが外したロープの端を伊藤さんに握ってもらい、袋本さんが体に巻きつけて海に入り、約10メートル程流された車に近づいたが、水深が袋本さんの胸までであったため、後部座席のドアガラスを石で割って車内から母子を救出した。

## 袋本 将史

この度、経験したことのない名誉な表彰をして頂き、公益財団法人社会貢献支援財団様には感謝しています。去年、天城一専務理事が滋賀県まで当時の事情を聞き取りに来られました。その時自分は社会貢献支援財団という財団法人がある事を知らなかったため、何かの雑誌に記載される程度だと思っていましたが、天城専務理事と会い、お話を聞くうちに、社会貢献支援財団の事が少しずつ理解でき、光栄な受賞候補の一人になる事を実感しました。

平成29年3月、第48回社会貢献者受賞決定の書類が届き、受賞の手続きを済ませ平成29年7月20日午後、東京に着き、帝国ホテル東京にてチェックインを済ませ、(久しぶりの東京なので少し贅沢しよう)家族で銀座界隈にて食事や東京見物をさせて頂きました。そうして翌日、表彰式典・祝賀会を迎えることとなりました。妻や子供達とあまり着慣れないよそ行きのスーツを着用して受付を済ませ、私はリハーサルに入りました。何もかも初めての経験でリハーサルなのに緊張して汗も出て大変でした。安倍昭恵会長もリハーサルに参加して下さって、初めて近くでお目にかかれて感激しました。色々練習をして、表彰式典を迎えることとなりました。

入場待機している時はさすがにリハーサルに無い緊張感がありました。

安倍会長の挨拶から始まり、選考委員の紹介、人命救助受賞者、社会貢献受賞者の功績紹介、表彰状の贈呈等がありました。とても真剣かつ和やかな雰囲気で行進して行きました。

私は、社会貢献功績者の日々の努力、活動の凄さに驚きました。世の中には私利私欲などこれっぽっちも求めず、人間を愛し、動植物を愛し、世の中の為にここまで出来るのかと、感銘して自分が今までして来た事を振り返り考えさせられました(もっと自分らしく真っすぐに生きよう!)。そして祝賀会が始まり和やかな雰囲気、他の受賞者とお話をしたり、安倍会長と握手や写真を撮りながら、美味しい食事やお酒を頂きあつという間に時間が過ぎて行きました。皆様とまた会える日を約束して、名残惜しんで東京を後に家路につきました。

救助の内容は、式典にて紹介された通りですが、当時を振り返ってみると。あの時、私と伊藤さんが水際まで降りたのですが、どうしよう一瞬二人の目が合いました!波も立っていたし、水深も潮の流れも分からなかったけど、車の中では子供が気を失い母親は泣き叫び必死で救助を求めているのを聞き、助けられるのは今しか無いと感じて身長も体も伊藤さんより私の方が大きかったので自身で決断をして海に入り、車の後方ガラスを石で割り救助に向かいました(早い決断をして二人とも無事で救助でき良かったです)。

今回、受賞を受け、いろんな人の功績を知ることができ、出会いがあり、人生の良い勉強をさせて頂きました。家族全員喜んでいますが、ありがとうございました。

## 伊藤 修一

2015年10月9日、私は友人の八木君と仕事の休みを合わせて、愛知県より福井県へとアオリイカ釣りに出掛けました。

いろいろな場所を移動をしながら、小浜市の犬熊漁港にて腰を落ち着かせ釣りを楽しんでいました。八木君は堤防の先端から南側を向いて、私は北西の方を向いて釣りをしていた所、私の向いている方向の崖から車が飛んできて海へ落ちてきたのです(崖は高さ10mほどあったと思います)。

私はまず正直に「スゲー」と心の中で叫びました。一瞬でしたが映画の1シーンの様な事が起こったのです。ですが、落ちた車は海に浮かんでいるのが見えたが、周りは静かで、誰も事故に気がついていないの



です。又、海に浮いた車からは、人が出てくる気配がありませんでした。ほんの数分ですが、いろいろな事が頭をよぎり大変な事が起きたのだと思います、すぐに八木君に事故の事を伝え、一緒に見に行こうと声を掛け、途中でたまたま釣りをしていた袋本さんにも声を掛け一緒に事故現場まで行くことにしました。八木君も袋本さんも音は聞こえたけど何が起ったのかわかっていませんでした。

車に近づいて見ると車の中から「助けてー」と女性がガラスを叩いていました。途中もう一人の人が警察、消防に連絡をしてくれていたのですが、袋本さんと車のガラスを割り、八木君に崖に掛かっていたロープを切ってもらい袋本さんに結び、袋本さんが女性を助けに行き、子どもが同乗していたので、子どもを抱え、お母さんは袋本さんにつかまり、私はロープを引っ張り救助はできたのです。

その後は、レスキューが来て子ども、お母さんの順で、レッカーで上まであげ、無事に病院へ搬送されました。私達3人は、警察の聴取で関係を開かれたのですが、3人の目が合い、ただの釣り仲間ですと伝え、握手をしながらお疲れ様でしたと声を掛け合いました。

翌日、警察、当事者から「ありがとうございます。軽いケガですみました」と連絡が入りました。その声を聞くまで、お母さんの「助けてー」という状況が頭から離れませんでした。

このような事で、社会貢献支援財団より表彰して頂き光栄に思っております。

式典では、様々の方のご活躍を聞き、今の日本も捨てたものじゃないかと、人の為に貢献する人が沢山いる良い国だと感じました。

八木 隆太郎

海難水難事故に際し、身命の危険を冒して救助、救援に尽くされた功績で表彰いただきまして誠にありがとうございます。

2015年10月9日午後3時17分頃、福井県小浜市の犬熊漁港の突堤で友人の伊藤修一さんと魚釣りをしていたところ、突堤から国道162号を見上げていた友人の伊藤さんが、突然、鉄柵を破り約10メートル下の海に転落する車を目撃しました。私と伊藤さんは、同じく突堤で魚釣りをしていた滋賀県の袋本さんと共に法面を伝って転落現場付近に向かいました。国道のガードレールから海岸まで下がっていたロープを伝って、伊藤さんと袋本さんが水際まで降りたところで、私が外したロープの端を伊藤さんに握ってもらい、袋本さんが体に巻き付けて海に飛び込みました。波も強く、約10メートル程車が流されておりました。

そこへ慌て泳いで車に近づきましたが、水深が袋本さんの胸まであったためドアも水圧で開きませんでした。そのため急いで後部座席のドアガラスを海底にあった石で割って車内から母子を救出することができました。その後、駆けつけた救急車に母子は乗り込み病院で手当を受けました。秋になっており水温もかなり低くなっておりましたが、救出中は助けたい一心で無我夢中になっており、海水の冷たさも一切感じませんでした。無事に母子の命が救えたことを3人で本当に喜びました。

式典に参加させていただき、「社会貢献者表彰は人びとや社会のために尽くされた方を表彰し、日本財団賞を贈るものです。社会貢献者は、広く社会の各分野において、社会と人々の安寧と幸福のために尽くされ、顕著な功績を挙げながら報われる機会の少なかった方々を対象としています。現在、表彰の対象となる功績は、緊急時の人命救助、社会福祉の増進や青少年の育成などへの多年にわたる功労、国際協力、海の環境保護と安全保持などです」

となっており大変名誉なものを頂きました。私としましては人命救助とは、人として当たり前のことをしたまどと思っており、他の受賞者の方々の救助の内容を拝見しますと自分の命を顧みず救助をされた方々が多数いらっしゃり、その方々と比べてしまつたら大変恐縮致しました。この度は素晴らしい会場、そして機会をいただき誠にありがとうございます。



▲車は鉄柵を破って海に落ちた

**車ごと海落下の母子救出 男性3人に感謝状**

海に落ちた乗用車の母子を助け、3人を救った。袋本さんが腰にこのロープを巻きつけ海中へ。伊藤さん、そのロープを押さえた。

滋賀県小浜市小浜町 内袋本 袋本将史さん(左)、鳴川 伊藤修一さん(中)、同県大浜町花常出口、会社役員八木隆太郎さん(右)に人命救助の感謝状を贈った。

九日午後三時ごろ、母子の乗った乗用車が小浜市犬熊の国道162号で鉄柵を突き破り、約10メートル下の海に転落した。近くで釣りをしていた三人が事故に気づき、八木さんが鉄柵に結びつけていたロープを外して下の二人に渡し、袋本さんが腰にこのロープを巻きつけ海中へ。伊藤さんは、そのロープを押さえた。

袋本さんは、沖合千ほどに流された車後部座席のドアガラスを右で割り、海水が浸入する車内から子ども(〇)を救い、母親は割れたドアガラスから自力で脱出。袋本さんの背中にしてみついで岸に戻った。翌日より、海流により車は沖に流されてしまったため三人の迅速な行動が救命に直結した。事故は居眠り運転が原因だった。

同日で行われた贈呈式で、寺谷康男署長は「おかげで二人の命が救われた。身の危険を顧みない行動」と感謝。三人は「とにかく助けな

贈呈式で寺谷康男署長から感謝状を受け取る八木隆太郎さんと伊藤修一さん(右から2人目)、袋本将史さん(第一小浜署)

二人の命が救われた。身の危険を顧みない行動」と感謝。三人は「とにかく助けな

きやこの思いだった「助かったことが何より大事」などと話していた。(五井孝明)

▲2015年10月30日 日刊県民福井

## 大谷 雄一郎／永井 真人



大谷 雄一郎



永井 真人

千葉県

2015年6月28日、千葉縣市川市東浜付近の干潟で野鳥観察会を開催していた大谷さんと永井さんは、「溺れている人がいる」と助けを求められた。現場に先に向かった永井さんが、突堤から100メートル程沖で浮いている女性のもとに泳ぎ、あおむけで浮いていた女性の頭部を抱えて戻ってくる途中、大谷さんも泳いで救助に向かい、力尽きかけていた永井さんと交代して女性を岸まで運んだ。外国人女性2人と男性1人が、現場で貝採りをしているうちに潮が満ちて起きた水難事故とみられている。

(推薦者：公益財団法人 船橋市公園協会)

## 大谷 雄一郎

今回、このような賞をいただき大変ありがたく感じています。

表彰式においては、自分たちのように人命救助で受賞された人以外に、世界各地での活動紹介をみて、「本当に素晴らしい志で活動している人たちがいるんだな」、「こんなに素晴らしい活動をしている日本人がたくさんいるんだ」と感動しました。これからの自分の行動の手本としていきたいと思いました。

水難事故のあった当日は、毎月開催している野鳥観察会のイベントに参加していました。毎月開催されるイベントなので、その日も観察会で参加者と鳥について話していたところ、突然女性が「溺れている人がいるので助けてください！」と走ってきました。急なことだったのですが、講師の永井さんが現場に直行し、私は事務所と消防に連絡した後、参加者に待機してもらい現場に向かいました。到着した時にはすでに永井さんが岸から100mくらいのところにおいて、溺れた人を引っ張って岸の方に向かっていました。ただ、体力の限界だということだったので、すぐ向かうことにしました。

この時は特に何か思うこともなく、早く現場に向かって永井さんと交代しなくちゃ！と少し緊張していたくらいだと思います。

実際向かってみると思ったよりも遠く感じました。永井さんと交代して岸まで泳ぐときには、「早くこの人を岸まで運ばなくては」ということだけを考え、がむしゃらに泳いでいました。しかし、人を引いて泳ぐのは思いのほか大変で、途中で何度も海水を飲んでしまい、自分も溺れそうになってしまったので、これでは共倒れになってしまうと思い、少しペースを落としました。なんとか岸に着いたときには、その場からしばらく動けないほど疲れていて、溺れた人を引いて泳ぐことの大変さを思い知らされました。

岸に着いたらもう一人溺れている人がいるので、助けに行ってほしいと言われましたが、その体力は残っておらず、断ることしかできないのが歯がゆく感じられたのを覚えています。

岸に着いた後は、近くにいた人たちに手伝ってもらい、救急隊が来るまで対応をしてもらったのですが、心肺蘇生法のための優先順位ややり方など、ぱっと出てこないことや、わからないことがあり、ちゃんと知っておかなくてはいけないと感じました。

救急車や消防隊、海上保安庁など、多くの方たちが現場に集まってきたので、もう自分のできる事はないと思い、観察会の参加者のところまで戻りました。

溺れた人1人を助けることはできましたが、それで力尽きてしまい、もう1人を助けに行くことができなかったのですが、それはどうしようもないことだとは思っているので、達成感



があるわけでも、悔いが残るわけでもない、何とも言えない非日常を体験した1日でした。周りの人からは3割くらい讚えられ、7割くらい怒られた感じでした。

2年経ったあとでもこのように受賞の機会を与えていただけましたので、少しはいいことをしたのかなと思います。

永井 真人

まさか、表彰をされたり、受賞するなどは、少しも思わずに、人命救助をしました。一番の理由は、現場にいた20名ほどの人が「誰も行かなかった」からです。後で振り返れば、そうできたのは、親以外には、守るべきものや人もいなかったことと、多数の海外渡航で、さまざまな人のやさしさに触れたり、助けてもらったことがあるのも理由かもしれません。

今回の式典への参加は、一度きりの人生でこういう機会もないだろう、親孝行がてらと出席をさせてもらいました。

式典に参加したことで、全国で、さまざまなケースで人命救助をした人、している人がいるのだなと実感しました。長年、東南アジアなどで、学校建設や、医療業務に携わる人々たちを間近にして、話しを聞いて、感動したのと同時に、ほんの1時間足らずの人命救助で、表彰されるのはおこがましいし、恥ずかしいなという気持ちにもなりました。1人の人の命を微力ながら救えたことは、今後の人生の自分への励みになるとは思いますが、救えなかった人たちのことが、今でも心残りです。

売名行為という批判や、結果オーライだったけど、無茶だという意見も聞いて、落ち込んだりもしましたが、今回の式典への参加で、それらを気にせず、生きていく気持ちになれました。そして、困っている人がいたら、手を差し伸べることはやめないように心がけたいと思います。ありがとうございます。



▲現場を指さす大谷さん ブイのあたりで女性が溺れていた



▲水難事故を受けて設置された看板



▲船橋公園協会の大谷さん プロバードウォッチャー「♪鳥くん」こと永井さん



▲ふなばし三番瀬海浜公園で永井さんがガイドを務める野鳥観察会の様子